

第5学年 国語科学習指導案

日時：令和6年6月18日（火）5校時

場所：清水小学校 5年生教室

授業者：

1 単元名 文章の要旨をとらえ、考えたことを伝え合おう 見立てる・言葉の意味が分かること

2 単元・教材について

練習教材と本教材の二つの教材は、文化や言葉に表れたものの見方の特徴について述べており、内容面で共通点がある。外国語の学習が始まる五年生の関心に適した内容である。また、「初め」「終わり」に筆者の考えが示され、「中」で定義や筆者の考えを論証する事例が示される構成も共通している。

練習教材・本教材は、ともに双括型の文章構成が共通しており、本文全体を通して、筆者の考えを論証していくような構成になっている。さらに構成以外にも、さまざまな叙述の関連が見られる。その一つが「原因と結果」の関係である。こうした叙述の関連は、筆者が自分の考えの説得力をもたせるために、情報を整理し、論理のつながりを明確にして記述していることを示している。本時でも、初めと終わりに述べている筆者の考えの説得力が増すように中（2）で「原因と結果」という視点で書いていることに気付かせたい。

3 研究との関わり

(I)ー2 文章の要旨を捉えて、言葉の意味について考えたことを伝え合うために、きよみずガエル君を活用する。

(II)ー2 深めの発問をすることにより、原因と結果の関係に気づき、事例と筆者の考えの結びつきを捉える。

4 単元の目標

◎原因と結果などの情報と情報との関係について理解することができる。

◎事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。

単元の評価基準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
・文中での語句や係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。 ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。	・「読むこと」において、事実と感想、意見などと叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	・粘り強く文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

5 単元指導計画

時	単位時間の目標	評価規準	並行読書
1	「見立てる」を読む活動を通して、「初め」「中」「終わり」の構成で成り立っていることに気付き、例の挙げ方について考えることができる。	「見立てる」について、文章全体の構成を捉えている。(学びに向かう力・人間性等)	「文化のちがい」 「ことばと心」 「世界のあいさつことば学」
	「見立てる」のキーワードを捉える活動を通して、筆者の考えに気づき、自分の言葉でまとめることができる。	「見立てる」の要旨を捉え自分の考えを発表している(思考力・判断力・表現力)	
2	「言葉の意味が分かること」を読んだり、問いをもったりすることを通して、単元の終末の活動の見通しをもつことができる。	単元の終末の活動に向けて、興味をもって読もうとしている。(学びに向かう力・人間力等)	
	文章を内容のまとめりごとに整理する活動を通して、内容を捉えることの大切さに気付き、文章構成について考えることができる。	「言葉の意味が分かること」について、文章全体の構成を捉えている。(知識・技能)	
	筆者が伝えたかったことは何かを話し合う活動を通して、考えの中心を捉える大切さに気付き、要旨をまとめることができる。	文章全体の構成を捉えて筆者の要旨の把握をしている。(思考力・判断力・表現力等)	
	「初め」「中(1)」を読む活動を通して、「言葉の意味には広がりがある」ことに気付き、筆者の考えを理解することができる。	「初め」「中(1)」の役割について理解している。(思考力・判断力・表現力等)	
	「中(2)」の2つの事例を読み取ることを通して、原因と結果の関係に気づき、事例と筆者の考えの結びつきを捉えることができる。	原因と結果の関係に気づき、事例と筆者の考えの結びつきを捉えている。(知識・技能)	
	「終わり」を読み、「言葉の意味は面である」ことに気付き、筆者の考えを理解することができる。	「終わり」の役割について理解している。(思考力・判断力・表現力)	
3	文章を書く活動を通して、筆者の考えや事例の示し方に着目するとよいことに気付き、自分の考えをまとめることができる。	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(思考力・判断力・表現力)	
	自分の考えを伝え合う活動を通して、原因と結果の関係の大切さに気付き、単元を振り返ることができる。	文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(学びに向かう力・人間性等)	

6 本時のねらい

「中(2)」の2つの事例を読み取ることを通して、原因と結果の関係に気づき、事例と筆者の考えの結びつきを捉えることができる。

7 本時の展開 (7/10)

単元のきよみずガエル君

「筆者が伝えたいことを捉えるときに着目した言葉は何か。」 ☆ (研究内容に関する指導援助)

言葉のたから箱:原因と結果、くり返し使われる言葉(言葉の意味のはんい)、文末表現(~でしょうか。~のです。)

段階	学習活動	研究内容に関わる指導・援助, 評価規準
つかむ	<p>1 前時までの学習の振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉の意味には広がりがある。 <p>2 「中(2)」の中から言い間違いの例を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「歯でくちびるをふんじやった。」 「朝食にスープを食べました。」 <p>3 課題をつかむ</p> <p>どうして言いまちがいをしてしまったのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習の足跡や板書を活用しながら前時までの振り返りをする。(デジタル教科書を活用) ☆単元の最後には、自分の考えを書くということを確認する。 言い間違いを結果、言い間違いが起こった理由を原因ということをおさえる。
深める	<p>4 「中(2)」を一人読みし、読み取ったことを交流する 言い間違い①</p> <p>結果 「歯でくちびるをふんじやった。」</p> <p>原因</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ふむ」と「かむ」が似た意味の言葉だから。 「かむ」という言葉を知らず、似た場面で覚えた「ふむ」を使ったから。 自分が覚えた言葉を、別の場面で使おうとしたから。 言葉の意味の範囲を広げすぎたから。 <p>言い間違い②</p> <p>結果 「朝食にスープを食べました。」</p> <p>原因</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語と同じ感覚で「食べる」という言葉を使ったから。 英語ではスープを食べるときも「eat」を使うから。 日本語の「食べる」と英語の「eat」は、似た意味の言葉だが、意味のはんいが違うから。 <p>5 深めの発問をする</p> <p>⑩段落の事例で、筆者が伝えなかったことは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語と英語だけでなく、世界中のどの言語についても同様のちがいがあることを伝えるため。 一つの言葉をどのはんいまで広げて使うかは言語によってことなることを伝えるため。 <p>6 まとめ</p> <p>言葉の意味には広がりがあり、言葉の意味のはんいを広げすぎたり、はんいをまちがえたから。</p> <p>7 「きよみずガエル君」について振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> 原因と結果 くり返し使われる言葉(言葉の意味のはんい) 文末表現(~でしょうか。~のです。) 	<ul style="list-style-type: none"> 原因を読み取ることができるよう、事例を板書に示す。 なぜ言いまちがいが起こったのかという読み取りの視点を示すことで原因を読み取る。 原因と結果の関係がわかるようなワークシートを準備する。 文末表現にも着目させる。 原因…~のです。それは~ 結果…どうして~なのでしょう。 筆者の考えは原因と結果のどちらに書かれているかを確認する。 結果→原因の順で書かれていることを確認する。 ☆⑩段落があることで言語による言葉のはんいの違いがよりわかりやすくなっていることをおさえる。 ☆教科書の図から日本語、韓国語、中国語での「持つ」動作を表す言葉の分け方について確認する。 「言葉の意味」、「広がり」、「はんい」を中心にまとめる。 ☆終末部分で振り返りの視点をもつことで第三次の自分の考えをまとめることにつなげていく。 ☆今日の「言葉のたから箱」の確認をする。 原因と結果の関係に気づき、事例と筆者の考えの結びつきを捉えている。(知識・技能)
まとめる	<p>7 「きよみずガエル君」について振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> 原因と結果 くり返し使われる言葉(言葉の意味のはんい) 文末表現(~でしょうか。~のです。) 	<p>☆今日の「言葉のたから箱」の確認をする。 原因と結果の関係に気づき、事例と筆者の考えの結びつきを捉えている。(知識・技能)</p>